

一般国道54号(可部バイパス)建設に伴う埋蔵文化財
トンガ坊城跡発掘調査通信

とんがぼ 第8号

(財)広島市文化財団

人骨出土!

すでに、新聞報道(2006年9月22日中国新聞)などで知られていると思
いますが、トンガ坊城遺跡から人骨が出土しました。この人骨が葬られてい



足をかがめて、壁側にうつむくように埋葬されています。(背中側が見えていて、顔面は壁側で見えてい
ませんでした。)



頭骨を取り上げたところです。きれいな歯並びがとても印象的でした。

たのは、土壇墓どこうぼという棺ひつぎを伴わない、ただ土を掘りくぼめた穴の墓です。

人骨は、下半身は膝を曲げてしゃがんだ状態で、上半身は前に倒した珍しい状態で埋葬まいそうされていました。

このお墓は、弥生時代後期の住居が使われなくなった後に、住居の上につくられたもので、このことからお墓が弥生時代後期以後につくられたと言えます。

人骨は、古人骨の専門家の松下先生(下関市、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム館長)に取り上げていただきました。その際に判明した人骨の特徴は、以下の通りです。

- ・30歳代の女性
- ・身長は約150cm
- ・鼻が低い
- ・少し出っ歯
- ・上腕じょうわんが発達している
- ・埋葬方法が特殊

今後、さらに詳細な分析を行い、この人骨の人物像を明らかにしていきます。

人骨の他にも！！

このお墓からは人骨の他に、葬られた人が身につけていたと考えられるガラス小玉（ガラスのビーズ）が147個出土しました。緑色と無色の2色があり、無色のものには、他のものより一回り大きいものもありました。土器などの副葬品は出土しませんでした。

お墓を掘っている最中は、ガラス小玉などのとても小さな遺物をすべて見つけ出すのは、とても大変なことです。

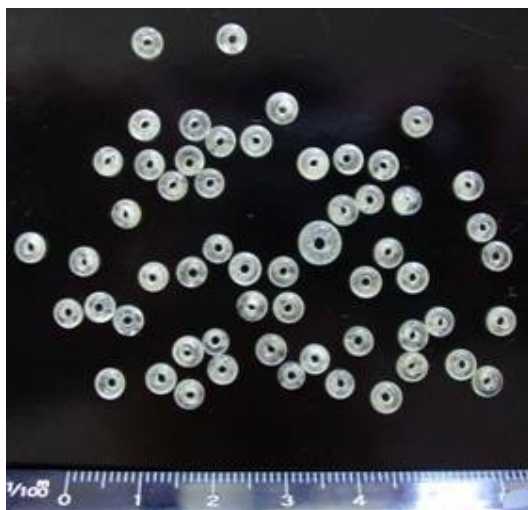
そこで、掘り出した土を捨てずに、とっておいて、その土をフルイにかけて丁寧に遺物を探し出しました。



墓の中の土をフルイにかけます。



土の中からガラス小玉（緑色）発見！



無色のガラス小玉（左側）と緑色のガラス小玉（右側）

トンガ坊城跡発掘調査に関するお問合せ

財団法人広島市文化財団文化科学部文化財課
広島市東区光町二丁目 15 番 36 号
TEL082-568-6511

ホームページ <http://www.mogurin.or.jp>
メール hbb@mogurin.or.jp
発掘調査現場直通 090-6433-6743